

## 第 100 回国際理解講座 講演要旨

国分寺市国際協会  
国際理解部会

第 100 回「国際理解講座」〈世界を知ろうシリーズ〉を 2023 年 1 月 28 日、100 回記念講座として本多公民館ホールで開催しました。講師に写真家の石川直樹さんをお招きし「地球を旅する」と題して、旅の先々での色々な体験談を中心に話をされました。高校 2 年の時のインド、パキスタンの旅を皮切りに、アラスカや北極圏、南極、ヒマラヤ山脈、太平洋の島々など、過酷とも思える地球の辺境の一人旅に次々と挑み、現在も続けておられます。その旅の中で撮られた写真や映像をもとにお話しをされたわけですが、写真を見、話を聴きますと、石川さんは写真家であるだけでなくたいへんな冒険家であるとの印象を受けました。

聴講者は、地球上で起こっている様々な事象、自然、ひとの営みなど、石川さんが撮られた写真とお話に魅入り、楽しくてすばらしい講演だったとたいへん好評でした。

以下に、本講演の要旨を簡単にまとめましたので紹介します。

### 1. はじめに

10 代のころから断続的に世界の旅を続けて、20 年以上世界各地を巡って文章に綴ったり写真を撮り続けてきた。子どもの頃から旅が好きで、中学生の時、「龍馬が行く」を読んで高知県に関心をもち、青春 18 切符という各駅停車の列車に一日乗り放題の切符を買って高知に向かって一人旅をした。高校 2 年の時に初めて海外一人旅としてインド、ネパールに行きそれが発端となって世界中を旅することになった。本日は若いころからどんな目的をもって世界を旅してきたかを写真、映像をお見せしながら話していきたい。

### 2. インド・ネパールの旅

17 歳、高校 2 年生の時にインド・ネパールを一人旅した。小学校の頃から旅や冒険の本が好きでよく読んでいたのと、高校の世界史の先生がよくインド旅行の話をしてくれたこともあってインドに興味を持って行きたくなり、親の反対を押し切ってインドに行った。一人で初めての外国で色々緊張する場面があったが、コルカタ（旧「カルカッタ」）からデリーまで、東から西へ旅をして同じ国でも多様な生き方のあることを学んだ。その途中、陸路でネパールにも入り、

カトマンズに行ったがインドと違ってリラックスでき、トレッキングに出かけて白い雪に覆われたヒマラヤの山々を見て憧れ、登りたいという思いを強くもった。さらに、色々な旅や冒険、探検に関する本を読んで世界を旅する憧れを膨らませ、世界を自分の目で見て、身体を通じて知りたいという気持ちが強くなった。エピソードとして、日本からインドへは直行便でいくよりも東京でバンコクまでのチケットを買い、バンコクでコルカタまでのチケットを買った方が安いことを教えられ、はるかに安い費用で行くことができた。

### 3. アラスカの旅

植村直己さんの本を読んでアラスカに憧れ、日本山岳会がデナリ山（旧名マッキンリー山）の頂上直下に気象観測機器を設置するため機材の運搬をする学生隊員の募集があったのでそれに応募し、機材を運ぶ仕事をしながらデナリ山に登頂した。デナリ山は、植村直己さんが世界で初めて真冬の登頂に成功して下山途中に行方不明になった山で、思い入れがあった。自分にとっては初めての高所登山（6000m以上の登山を言う）だったため高山病や高度障害の知識に乏しく、頭痛がしたりで色々苦勞したが登頂できた。これまでは平地に行く水平方向の旅だったが、登頂してみると垂直方向の旅の面白さを実感し、もっと高い山に登りたくなった。アラスカでのもう一つの体験として、カヌーでユーコン川を下る旅をした。2～3週間の旅でキャンプしながら進んでいった。これも楽しい旅だった。

### 4. 北極～南極へのチームでの旅

デナリ山の登頂を体験してからすぐ後に、「Pole to Pole」つまり北極から南極までの旅をする機会を得た。この旅は、北極を出発して北米～中米～南米を経て南極点までの旅で、自分を含めて選ばれた世界の若者8人が1年がかりでの団体旅、いわば国際的プロジェクトで、大学を休学して参加した。これまでの一人旅とは全く異なり、外国人の中に入って英語で話しながら、中南米ではスペイン語でスピーチさせられたり、一人旅では味わえない貴重な体験ができた。北極や南極をスキーで歩いているうちにますます極地に惹かれるようになった。

### 5. 北極圏の旅

写真家の星野道夫さんが北極圏にあるアラスカのシシュマレフという村に暮らして、そこで出会った人たちのことや自然との関わりを写真や文章に表した本を出版しているが、Pole to Poleの旅で極地に惹かれたこととも相まって、

その内容に大いに感化され 20 代の中ごろにシシュマレフを訪れた。シシュマレフの住民は星野さんが本の中で描いていた狩猟を軸に置いた暮らしを続けていた。この他、アラスカ北極圏の小さな村々で、地域に伝わる神話やアラスカの色々な様子を聞かせてもらった。シシュマレフは北極圏の中のアラスカの沿岸の砂洲の上にある村で、近年の地球温暖化の影響を受けて砂洲がどんどん減ってゆき、村は存在の危機に晒され、村の人たちは移住せざるを得ない事態になり、自分が訪れた時はまだ良かったが、その後は全村移住の危機に瀕していると聞いている。

アラスカに続いてグリーンランドへ行き、イルサットという町に滞在した。この町では人の数より犬の数の方が多く、いまでも犬ぞりが使われていて、犬ぞりに乗せてもらって色々な猟に出かける様子や、海の漁にも連れて行ってもらい写真を撮ったりして過ごした。

## 6. 壁画を巡る旅

アラスカから始まって極地の旅を 10 年くらい続けた。極地は普段の生活から離れた遠いところで、色々な新しいことを体感しながらの旅だったが、一区切りつけて、そういう極地だけでなく、人間の内面にある未知の領域にも関心が出てきて、例えば、世界中の壁画を訪ねるプロジェクトもスタートした。壁画を見ていると時間を遡るような感覚で昔の人の痕跡に触れる思いがするので楽しかった。

いくつかを紹介すると、オーストラリアへ行って先住民族、アボリジニーの壁画を見た。彼らは書き文字がないので自分たちの歴史を絵として残した。北欧では沿岸部の岩に壁画が描かれていると聞いて、カヤックでフィヨルドの沿岸部を進み海から壁画を見て撮影した。

## 7. 太平洋～ポリネシア、ミクロネシアへの旅

陸の辺境地域だけでなく太平洋のミクロネシア、ポリネシアへも行った。今は GPS や海図で場所を確認しながら簡単に目的地に行けるが、当時はそのような便利なものはなく、また島々が見えれば島伝いに行くこともできるが、太平洋の真っ只中で島と島が遠く離れていて島影は見えない。そうした遠洋を渡る星の航海術を、ミクロネシアの島に滞在して教えてもらって、星を見ながら島を渡る旅をした。ポリネシアはハワイ諸島・イースター島・ニュージーランドを頂点とするトライアングル（三角形）を形成しているが、その頂点の一つ、ハワイの 5000m 級の山・マウナケア山は真冬には雪が降るので、山頂付

近では冬景色が見られスノーボードができる。標高ではエベレストよりはるかに低いが海底からの高さはエベレストより高いといわれる。

海の最後の旅としてイースター島に行った。イースター島は国としてはチリに属し今はモアイが有名。ポリネシアのトライアングルはヨーロッパの3倍くらいの面積があるが、ヨーロッパが多数の言葉、文化があるのに対しポリネシア語のネットワークは大きく全てポリネシア語が通じ、海でつながる一つの文化圏を形成している。

## 8. 知床からサハリン・カムチャッカへの旅

日本国内も色々なところを見てきたが北と南が興味深い。知床には毎年行き、流氷を見て春近しを感じる。1~2月には流氷が漂着して海は一面氷に覆われ、子どもたちが流氷の上で遊ぶ姿が見られる。海水はよほどの低温にならない限り凍らないが、なぜ知床の海が氷で覆われるか。それは、極東の大河アムール川の真水がオホーツク海に流れ込んで海水の塩分濃度が低くなって凍り易くなり、凍った氷が海流に乗ってオホーツク海から北海道の沿岸に流氷となって押し寄せてくるからである。

知床から北に行ってサハリン、カムチャッカへ渡った。サハリンでは先住民のコミュニティを訪ねて生活様式など色々な話を聴かせてもらい、トナカイに関わる祭りも見学した。

日本は北海道から沖縄まで島で連がっているが、北へ向かうと千島列島からロシアを経て北極圏へと繋がり、南は沖縄から宮古島や八重山諸島、台湾から東南アジアさらに太平洋の島々へと繋がっている。大学院のときにこれら島めぐりの旅をしながら多くのことを学んだ。

## 9. ヒマラヤの旅

ヒマラヤは自分にとって大切な場所で、ここ10年間で最も多く、熱心に通ったのがネパール・チベット・パキスタンに広がるヒマラヤを中心とした山々だった。2001年にチベット側からエベレストに登頂し、その後2011年にネパール側から2回目の登頂を果たした。それ以降毎年ヒマラヤへ行き、K2（エベレストに次ぐ第2の山）やカンチュンジュンガ、マナスルなど色々な山に登った。K2はカラコルム系の山で、標高はエベレストより低いが登山環境は厳しく、2015年と2019年に挑戦したがいずれも登頂できず、昨年7月ようやく登頂することができた。K2があるパキスタンはイスラム教の国で滞在中緊張感がある。

## 10. おわりに

高校生のときに初めて海外へ一人旅をして以来 20 年以上、旅を続けてきた。いずれの旅も自分なりにテーマを見つけながら、色々なことを自分の目を見て、耳で聞いて、身体で感じて体験しながら理解する旅を続けてきたし、今後もそのような旅を続けていきたい。

『これまでの石川さんの経験から一般の人たちに伝えたいことは何か』という質問があったが、その答を一言で言えば『世界は本当に面白いよ』で、ものごとを学んだり理解する最高の手段は旅に出ることだと思っているので今後も旅を続けていく。

以上